



いつも笑顔が絶えないFFJクラブの皆さん。右から石井さん、千代田さん、藤村さん、顧問の横塚先生

川越の新名物を作り出す つるっこ娘 開発中

川越総合高校のFFJクラブは、明日の農業の発展につながる、地域に根ざした活動をしています。現在部員は3人。FFJはFuture Farmers of Japanの略で、日本学校農業クラブ連盟のことです。同クラブはFFJの関東大会プロジェクト発表「食料」の部で最優秀賞を受賞しました。10月には全国大会に出場します。でも、つるっこ娘たちがほんとうに目指しているものは、ほかにありました。



「つるっこ豆腐」始まる

「川越はサツマイモで有名なから、サツマイモの加工食品を研究しよう」。ここからすべてが始まりました。しかし、サツマイモを加工した商品はすでに数多くあります。そこで思いついたのが、普通は捨ててしまつ茎と葉。それを利用して、どんな世代でも食べることのできる加工食品として「つるっこ豆腐」の研究が始まりました。平成十五年の春のことです。

原料となる無農薬サツマイモの生産から豆腐作りまで、すべて三人で行っています。一年生の藤村成美さんは「活動記録をまとめるのがいちばんたいへんです。

気が付いたら夜の八時なんてこともあるんですよ」と話していました。

力を合わせて
ことし重点的に取り組んでいるのが、成分分析。通常、専門の研究機関に依頼するところを、三人は自分たちで行うことにしました。

「高校にある設備を使つてできることは、何でもやってみようって考えました。実践していくうちに、どんなこの研究がおもしろくなりました」と話す部長で三年生の千代田悦子さん。初めての作業で失敗もありましたが、「つるっこ豆腐」の成分は、少しずつわかってきています。

ほかに、解決しなければならぬ問題はたくさんあります。「茎と葉はどのように加工して使うか、混ぜる割合はどのぐらいにするか、豆腐を固める凝固剤は何を使うか……。みんなで実験し、話し合つて解決してきました。これからも、力を合わせて研究を続けたいですね」と二年生の石井玲香さん。

「三人とも、ほんとうに熱心なんですよ」と、顧問の横塚知恵美先生。三人にとって先生は、何でも話せるよき相談相手です。

「つるっこ豆腐」商品化へ

この研究の最終目的は「つるっこ豆腐」の商品化。市内の商店に協力してもらつたため、商工会議所に相談に行くなど、商品化に向けての活動も始まっています。数年後、これまでの研究が後輩に引き継がれていくことで、「つるっこ豆腐」は川越の新名物になっているかもしれませんね。



まちのできごと

川越市の面積は109.16km²

109パレット

ドイツから来たギターの使者

ことしは「日本におけるドイツ年」。これにちなみ、9月3日、仲町にあるコンサートホールで、姉妹都市オッフエンバッハ市（ドイツ）に住むギター奏者のヤン・マズーアさんによる演奏会が行われました。日本語で「こんばんは」とあいさつをしたヤンさん。演奏が始まると、蔵を改造して作られた会場内に、優しいギターの音色が響き渡りました。



会場の皆さんにあいさつするヤンさん



力強い1歩目の跳躍

世界大会で銅メダルを獲得

「第16回世界マスターズ陸上競技スペイン大会」の三段跳び・60歳以上のクラスに出場した川澄映さん（62歳・鹿飼）。8月28日、17か国から26人の選手が出場する中、銅メダルを獲得しました。練習では1本も跳ばず、イメージを作ることに専念して、跳びたい気持ちを高めていたそうです。「3度目の世界大会挑戦で、念願がかないませんでした」とうれしそうでした。



獲得したメダルを胸に

古代米で大きな川越

10年ほど前から古代米の栽培を始めた大室圭史さん（69歳・笠幡）。ことは10種類の古代米を栽培しています。5月上旬に、全体が濃い紫色の大黒紫と、緑色の大黒緑を使い、設計図を作ってから植えました。やがて成長して、浮かび上がった文字。「普通の稲より手間はかかりますが、古代米は色が多彩なのがいいですね。来年は黄金色の古代米を植えたいと考えています」と大室さん。



1つの文字は4メートル四方、全体の幅は40メートルもあります

「チームワークを大切に考えています。これからは選手の層を厚くして、気持ちの強いチームにしたいですね。興味のある方は、一度見に来てください」と話すキャプテンの小高滋子さん。十月の全国大会に向け、チームの士気はますます盛り上がっています。

二十年以上の歴史を持つこのチーム。しかし、三年以上公式の試合で勝てない時期が続きました。部員も減り、試合をするのもやつとの状態。それでも練習を続け、一年前に久しぶりの勝利を手にしたとき、チームの雰囲気が変わりました。その変革を後押ししたのが、半年前から監督に就任した山崎隆さん。練習でも、試合でも、的確な指示を出します。その成果が、七月に行われた第五十四回全国青年大会の埼玉県予選での優勝でした。

川越クラブは、三十歳前後の社会人で構成されている女子バスケットボールチーム。毎週土曜日、初雁中学校体育館で練習を行っています。



県予選優勝の賞状を手に。このユニフォームは、全国大会用に新調しました

かわい
越
び
と
18